

論文審査の結果の要旨

申請者氏名 金 氣興

食の安全や環境に対する意識が高まりつつある今、安全で環境にやさしい農産物を提供しようとしてきた有機農産物が消費者の注目を集めている。このことは、有機農業が高付加価値の農産物を生み出す有望な分野であることを意味する。しかし一方で、有機農業を実践する人々の中には、経済性よりも健康や地域の環境やコミュニティを重視し、自給自足を指向する小規模なタイプもある。本論文では、まずこのような二つのタイプが併存する状況をアクセルロードのゲーム論における成果を踏まえつつ理論的に説明する。アクセルロードは市場の失敗の克服策としてラベルと領域性というふたつの方向を理論的に提示した。その理論を応用して、食の安全を脅かす問題や環境破壊を市場の失敗と捉え、有機農業に見られる二つのタイプは、ラベルと領域性に対応したものであることを本論文は示した。このような理論的枠組みに基づいて、日本と韓国の有機農業の発展過程の比較を通して、両者のタイプが併存する状況がどちらの国にも見られることを示した。そして、経済性ではラベル型のタイプが優れているものの、環境・健康・コミュニティ・地域活性化などの面で後者が重要な役割を担っているものであることをケイパビリティという概念を用いて明らかにした。

本論文は3部8章から成る。まず序章で本論文の目的と構成を述べた後、第1部で有機農業に見られる二つのタイプを市場の失敗という観点から理論的に考察する。第2章で、本論文における有機農業の定義を与えた後、第3章で、食の安全を脅かす問題を不完全情報の問題として捉え、環境を外部不経済の問題として捉え、これらの市場の失敗の克服策には、アクセルロードが理論的に示したラベルと領域性のふたつがあることを示し、これらの二つの克服策が有機農業の二つのタイプ、すなわち認証を用いた市場指向型のタイプと、地域性や人間関係を重視する小規模な地域密着型のタイプに対応していることを示す。

このような理論的枠組みに基づいて、第2部と第3部で日本と韓国の有機農業の発展過程が検討される。第4章では日本の有機農業の発展過程が示される。1970年代に食の安全と環境保護を求めて始まった日本の有機農業運動は、市場が拡大するとともに有機農産物を名乗る不当表示問題が発生し、それを規制するために認証制度が導入された。認証制度は市場を広域化させ、利益を追求できる一方で、それを利用できない小規模農家はむしろ認証を取得するよりも地域に密着した本来の形に活路を見出そうとした。第5章では、地域密着型の事例として「あしがら農の会」を取り上げ、生産者と消費者が有機農業に求めるものをアンケート調査の統計分析により明らかにした。その結果、消費者は最初は単に安全な農産物や環境だけに関心を持っていたものが、生産者との交流を通して包括的な関心を持つようになり、地域のコミュニティの形成と強化にもつながっていくことが示さ

れる。このような非金銭的な面での貢献は、ケイパビリティ・アプローチによって適切に捉えられている。

第3部は韓国における親環境農業の発展過程を取り扱う。韓国では有機農業と減農薬を合わせて親環境農業と呼ばれる。第6章は、韓国の有機農業の発展過程を考察する。韓国の有機農業も1970年代に始まり、90年代に認証制度が導入されるが、日本との大きな違いは、政府が親環境農業を強力に推進したことである。その結果、韓国ではラベル型のタイプが主流となっていく。民間認証機関は認証業務を行う他に、技術指導や情報提供も行い、親環境農業の普及に貢献している。しかし、このような政策は親環境農産物市場での競争圧力を増大させ、競争に耐えられない小規模生産者グループは地域密着型に移行しつつある。第7章では、地域密着型の道を選択した「パルダン生命サリム」がその事例として取り上げられる。

結論部である第8章では、持続可能な発展という観点から、有機農業の二つのタイプについて評価を行ない、従来、それほど評価されることのなかった小規模な地域密着型有機農業が地域コミュニティの強化という面でも重要な役割を担うことを論じる。

以上を要するに、本論文は有機農業で見られる二つのタイプが、市場の失敗に対してゲーム理論から導かれた二つの解決策に対応していること、それが、異なった発展パターンを辿る日本と韓国の有機農業においても併存しうること、したがって有機農業が進むべき方向は二つの方向があることを示し、小規模な地域密着型有機農業もケイパビリティの観点から十分に評価されるべきものであることを示した。この理論的アプローチは独創的であり、ケイパビリティ概念の応用の面でひとつの分野を開拓した。さらに有機農業の促進政策の上でも重要な含意を持つ。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。